

## LPガスCP速報(2023年3月積)

### 1. 3積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **720**  $\text{ドル}$  (前月比-70  $\text{ドル}$ )  
ブタン **740**  $\text{ドル}$  (前月比-50  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、記録的な寒波も過ぎてみれば暖冬、需要期明けも間近となった。サウジ、UAEのターミナルメンテナンスは3月中に終了予定、数量制限も正常化に向かうことが期待される。中国のコロナ規制撤廃、春節も明けPDF等の需要回復はこれから。東南アジア、台湾、韓国の需要(石化需要含む)は堅調、需給タイトの完全解消には至っていないが、極東CFR市況は、第1週のプロパン、ブタン815  $\text{ドル}$ から第3週末には740  $\text{ドル}$ まで下げている。

米国市場をみると、輸出、需要ともに堅調、全米プロパン在庫は10週連続で減少したが、在庫水準は超低水準の前年同期比167%、26週連続で前年同期を上回り、5年平均レンジの上位(グラフ②)。モンベルビュープロパンスポット価格は反落。堅調な原油市況に支えられてきたが、中東高騰の特需も過ぎ、高水準在庫を受けて月間平均は前月比9  $\text{ドル}$ 下げの430  $\text{ドル}/\text{トン}$ 、前年同期比では250  $\text{ドル}$ どころの下落(グラフ①参照)、となっている。

フレート市況は、史上最高値の12月から1月は急落、2月は反騰と乱高下、再び100  $\text{ドル}$ 超となっている。パナマ運河の滞船日数は2月初旬には5日以内に落ちていたが、また増加。好調な輸出が続く米国の市況が回復、米国向け備船が増え、インド向け備船需要もあり、船舶需給は引き締まった。今後は中東産ガス国のメンテナンス終了と中国需要の回復で船舶需給がタイト化するとの観測も。暖冬から不需求期入りとなるが、中東市場の需給動向、パナマ通峡ラッシュも引き続き警戒が必要。

ナフサ市況は続伸、月間平均は前月比24  $\text{ドル}$ 上昇の715  $\text{ドル}$ どころ。原油市況が堅調に推移、コロナ規制解除で中国はじめ石化の需要回復が本格化するのかどうか注視が必要。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比13  $\text{ドル}$ 続伸の418  $\text{ドル}$ となった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同90  $\text{ドル}$ の大幅続落で820  $\text{ドル}$ どころ、低水準在庫は続いているが、ピークを過ぎC重油との格差も400  $\text{ドル}$ どころに縮小した。

3月CPは前年同月比プロパン175  $\text{ドル}$ 、ブタン180  $\text{ドル}$ それぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン10ポイント、ブタン8ポイント下落、前年同月比ではプロパン11、ブタン12ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	91	90	95	102	95
CP先物指標：P	670	735	720	720	711
CP先物指標：B	665	730	720	730	711

#### ② 原油市況等

ロシアのウクライナ侵攻から1年、昨年6月に120  $\text{ドル}$ を突破したWTIも侵攻前の水準を割り込み、2月月間平均では76  $\text{ドル}$ 台に反落する見込みだ。世界的にインフレが進行、中央銀行による金融引き締め、利上げ継続観測から景気減速、需要減退懸念が原油市況の重しとなっている。一方、中国のゼロコロナ規制の撤廃による需要回復期待が強まるとともにOPECプラスの減産、3月からロシアの追加減産もあり下半期の供給不足を指摘する報告もある。石油市場を巡るファンダメンタルズをみると、景気後退と中国需要回復、ロシアの減産と堅調な輸出がそれぞれ綱引きの状態。原油市況は10  $\text{ドル}$ の狭いレンジ内で取引が続いているが、金融市場のセンチメントは弱く、商品先物市場はリスク回避でポジション縮小、流動性が低くボラティリティが高い状況が続いている。ウクライナ戦争の長期化は避けられず、中東情勢を含め世界各地で政情不安など緊迫の度合いを強めており、上振れリスクは枚挙にいとまがない。

○2月積みアラビアン・ライト(2月1~27日までの想定)は84.00  $\text{ドル}$ (前月比+0.10  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン688.71  $\text{ドル}/\text{トン}$  ブタン679.27  $\text{ドル}/\text{トン}$

AL比 プロパン104.54% ブタン108.94%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

## 2. 2023年3月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

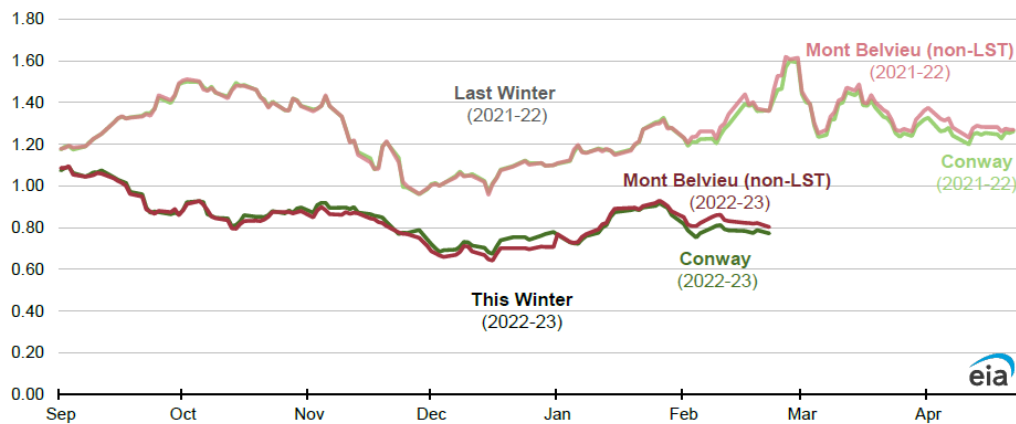
適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
①20日締め	132.23	102,300	111,600	+6,200	+9,300
②末日締め	133.75	102,500	112,300	+8,200	+11,400

\*TTS平均等について、①が1月21日～2月20日、②2月1～28日までで想定。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。プロパンのMB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①、②ともに中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。

なお、上記MBは2月24日までの価格を基にEINで試算（430ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米国プロパンスポット価格推移

Propane spot prices (Conway, KS and Mont Belvieu, TX)  
dollars per gallon



Data source: Bloomberg, L.P. data through February 22, 2023

### ②米プロパン在庫推移(全米・メキシコ湾)

